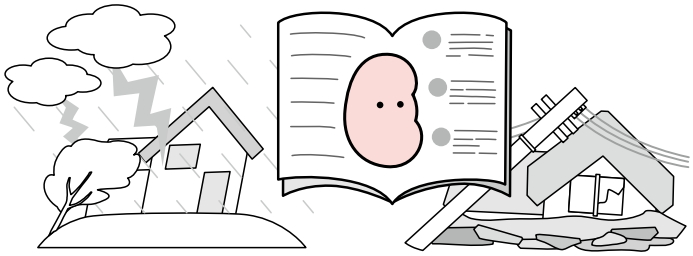
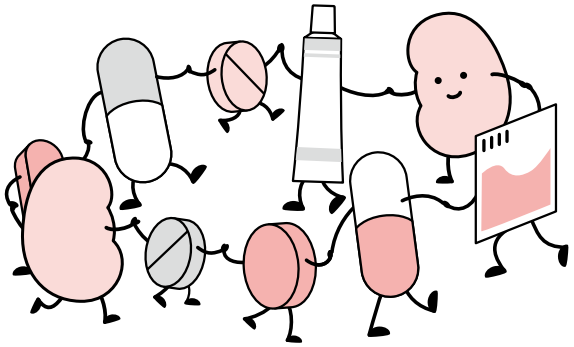
お薬手帳の役割

お薬手帳は、持ち歩ける薬のカルテです。

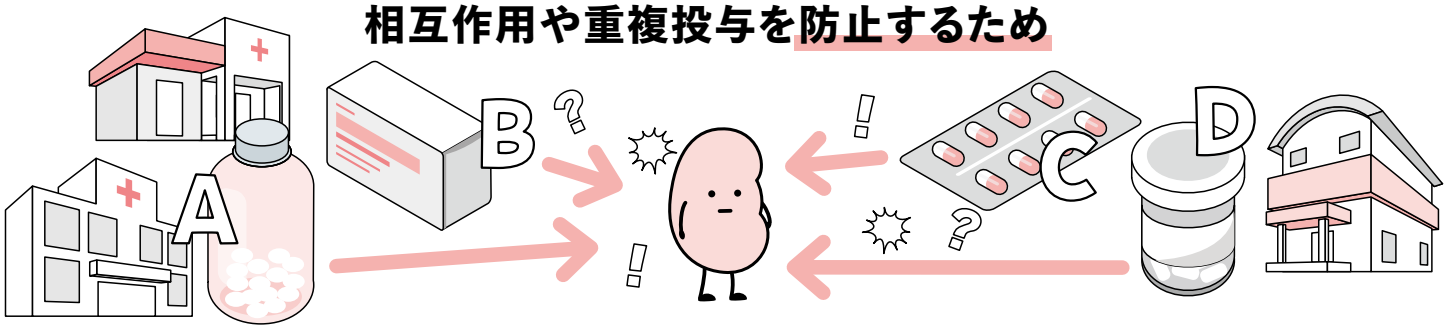
日常的に、災害などの緊急時に、あなたの体のことを伝えるため



自分が使っている薬を正しく知るため



複数の医療機関を受診した際や市販薬を利用する場合、飲みあわせやダブりを確認し、相互作用や重複投与を防止するため



適切に記録したお薬手帳を、かかりつけ薬剤師・薬局に持っていけば
服薬情報の一元的・継続的な把握と、
それに基づく適切なアドバイス、情報提供などが受けられます。

お薬手帳を忘れがちな方は電子版（スマートフォンアプリ）も検討しましょう。

- スマートフォンは常に持ち歩くため、紙のお薬手帳より持参し忘れる可能性が低い。
- 食事、喫煙／禁煙、血圧、体重などの健康の記録機能や、登録した通院予定や薬の服用時間のお知らせ機能を併せ持っているものも。
- 地域が一体となり支援体制を構築するしくみなどとの連携が可能。
- 機能やデザインなど、自分好みのものを選べる。

●かかりつけ薬局やよく利用する薬局が採用しているアプリを選ぶと、その薬局での利用がより便利になります。電子版の利用を考えている場合は、薬局に相談してみるとよいでしょう。

監修　菊地 真実　帝京平成大学薬学部　教授

みんなでつくろう、これからの医療
with Kidney プロジェクト
https://www.jinlab.jp/withkidney/
患者と医療者がつくった腎臓病とのつきあい方ガイド

運営　一般社団法人ピーペック
PPeCC ピーペック
https://ppecc.jp/

制作　腎臓病情報サイト「じんラボ」
じんラボ
腎臓病に関わる人の幸せのための
https://jinlab.jp/

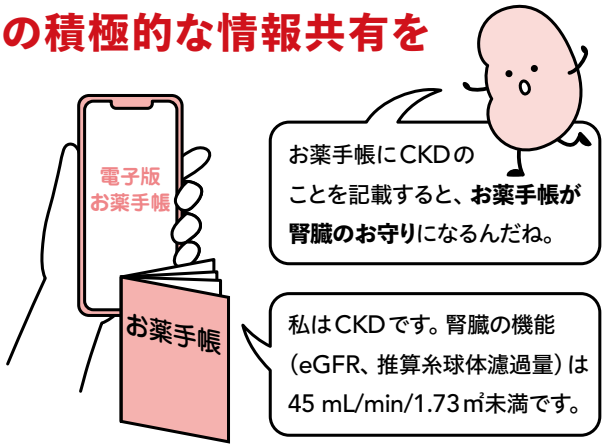
薬物療法
第1版（2024.11）

CKDとお薬手帳
慢性腎臓病

腎臓が弱るにつれ、薬による副作用および望ましくない作用が起きるリスクも上がり、慢性腎臓病（CKD）が重症化する可能性もあります。

腎臓を守るために、複数の医療者との積極的な情報共有を

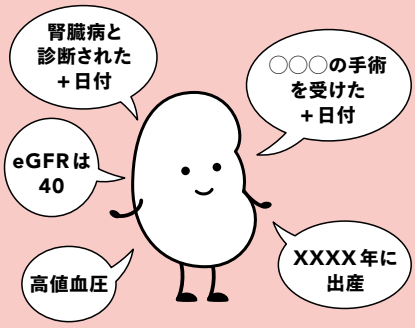
腎臓が弱るにつれ、副作用や望ましくない作用が起きるリスクも上がります。腎臓の状態が医療者に共有されていないと、腎臓に負担をかける種類・分量の薬が処方されるかもしれません。
お薬手帳に腎臓の機能を示すシールを貼る取り組み「CKDシール」を利用するなどで、腎臓の状態をお薬手帳で医療者に認識してもらえるようにすることが重要です。



お薬手帳を効果的かつ最大限に活用するために準備しておくこと。

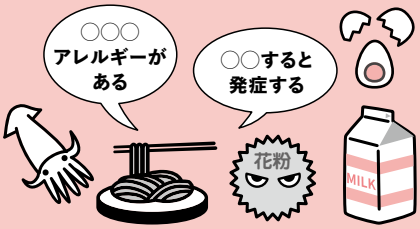
災害時など、よく利用する医療機関以外で受診する場合でも滞りなく情報共有できるように、氏名、生年月日、日頃から利用する薬局の名称などの他に、以下のことを記入・記録しておきましょう。

腎臓病を含む既往歴など



腎臓病に関しては腎臓の処理能力を表すeGFR（推算糸球体濾過量）もできれば記載、わからない場合は主治医に確認

アレルギー歴



あなたが買って使っている市販薬やサプリ

副作用歴

緊急時の連絡先

- ☑ 家族などの連絡先
- ☑ かかりつけ医・緊急搬送先
- ☑ ケアマネジャーの連絡先

…など

監修　菊地 真実　帝京平成大学薬学部　教授

みんなでつくろう、これからの医療
with Kidney プロジェクト
https://www.jinlab.jp/withkidney/
患者と医療者がつくった腎臓病とのつきあい方ガイド

運営　一般社団法人ピーペック
PPeCC ピーペック
https://ppecc.jp/

制作　腎臓病情報サイト「じんラボ」
じんラボ
腎臓病に関わる人の幸せのための
https://jinlab.jp/